

ビッグデータ振興プラン、大手企業が多数参加

政府は先頃、34 項目の産業振興策の一つとして、ビッグデータ振興プランを承認した。経済紙レゼコーは7日付で、プランの中で提示された具体的なプロジェクトについて報じた。

保険、エネルギー、通信などの分野の大手企業が加わるプロジェクトが実施される。

まず、共済保険の連合組織であるコベアは、2つのプロジェクトを主導。一つは、若年ドライバーの啓蒙向けのデータ利用で、ドライバーのプロフィール（スポーツの実践歴、趣味、インターネット履歴など）と運転態度に関するデータを交錯させることで、各人に適したアドバイスを行い、自動車保険の料金面で安全運転に向けたインセンティブを与えるという趣旨。もう一つは、保険詐欺対策のためのデータ活用となっている。他方、アクサ（保険）、ラ・バンク・ポスタル（銀行）、ソシエテジェネラル（銀行）は、インターネット業界団体と協力して、各ユーザーに管理の権限を与えつつ、個人情報第3者が利用してサービスなどを開発することができるプラットフォーム作りを進める方針。オレンジ（通信）は、モノのインターネットに接続するデバイスからのデータを集積するプラットフォームを構築し、これをスタートアップ企業に開放するプロジェクトを推進。また、GDF スエズ（エネルギー）は、アルストム（重電）や関連中小企業と共同で、エネルギー、交通、スマートシティのデータを集積するプラットフォーム構築を計画。EV の利用状況を組み入れた電力供給体制の実現など、スマートシティ・モビリティとエネルギーの最適化にビッグデータを役立てることを目指す。

（Les Echos 2014年7月7日）